

WEB 公開用招請報告書

張生 (Zhang Sheng)

高田幸男

張生氏は、現在、南京大学歴史学院教授で歴史学院院长（学部長に相当）である。南京大学初の40代院長でもある。今回、中国近現代史研究の学術交流、学生との交流、および南京大学歴史学院と本学文学部の交流促進のために、2017年11月10日（金）から11月19日（日）の日程で、張生氏を招聘した。張生氏は、滞在期間中、下記のとおり日本側の教員・研究者・学生と交流した。

13日（月）には、文学部の役職者、アジア史専攻教員らと会談し、今後の学部間交流の促進について協議をした。

14日（火）には、招聘者高田の「東アジア国際関係史B」の授業時間を使って、公開講演会「“民国風”の歴史的眞実一周仏海日記を中心に読み解く」を開催した。講演は、最近の中国における「民国風」の流行（日本の大正・昭和レトロのように中華民国期を懐かしむ風潮）に対して、民国期という時代の諸相、その光と影を提示するもので、講演には学部学生のほか、平日午後にも関わらず外部の聴講者、研究者も聴講し、公演後活発な質疑応答がおこなわれた。

15日（水）は、招聘者高田の1年生向け演習授業「基礎演習B（アジア史）」の授業時間を使って、公開講演会「重慶会談から第二次国共内戦まで」を開催した。講演は、学部1年生向けに第二次世界大戦終結後の中国で国共会談が失敗し内戦の末、中華人民共和国が成立した歴史的経緯を分析するもので、講演には1年生のほか、外部の研究者も出席し、活発な質疑応答がおこなわれた。

16日（木）は、17日に開催される科研プロジェクト（代表者は高田）のシンポジウムに出席するために来日した中国側研究者6名および科研の一部メンバーと、シンポジウムの打合せをおこなった。

17日（金）は、科研プロジェクト（代表者高田）の国際シンポジウム「江南の中の近現代中国」に出席し、第1部の日中各2名の学術報告に対してコメントをしたほか、総合討論においても、今後の中国近現代史に対する日中共同研究の重要性を提言した。

18日（土）は、シンポジウムの中国側参加者とともに、高田の案内で本学生田キャンパスへ行き、平和教育登戸研究所資料館を見学した。

以上のように、張生氏は積極的に日程をこなし、講演会やシンポジウムを通じて、中国における中国近現代史に対するさまざまな見方を提示して、研究者のみならず学生にも刺激を与えるとともに、日本の学生と直接接することで学生の相互交流に意欲を示した。